



第 69 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

天守台編集委員会

TEL (0761) 21-6330

本年度四月に校長として着任しました、馬場智子です。小松高校には、高校生としての三年間、英語科教諭として三年間、教頭として二年間、お世話になりました。今回は校長として、三年ぶりに勤務することになります。赴任して最初に校舎内を回り、春休み中の生徒の姿を見た時、「ああ、われらが母校、小松高校」という校歌のフレーズが頭に流れました。廊下ですれちがう生徒のさわやかな挨拶、チームメイトとともに部活動で汗を流す姿、教室や自習室、コモンスペースで自主的に学習に取り組む様子。すべてが本校の校是である「文武両道」「自主自律」を体現していると感じたからです。同時に、自分にとって小松高校とはどのような場所だったかということ振り返りました。

私にとって小松高校は、豊かな学びの機会を提供してくれた場所でした。数学の公式や、古典の文法を忘れてしまった今でも、多くの先生方や与えられた教材から、学ぶことのおもしろさを教えていただいた三年間だったと思います。古典の授業で先生の解説を聞きながら、国語便覧を開いて、着物の色の名前や取り合わせの美しさに感心したり、宮中の図解を見て、当時の貴族の生活に思いを巡らせたり、一人空想の世界にいたこともありました。文系

が訪れた神社仏閣や遺跡について、目を輝かせて話す姿から、大人になったら自分の目で本物を見てみたいという気持ちになりました。実際、大学卒業後にパチカン市国を訪れる機会があり、サンピエトロ大聖堂をはじめとする美しい建物や数々のすばらしい彫刻や絵画を見て、「莫大な富と権力が教会に集まっていた」と当時の世界史の先生が解説されていたことを実感として捉えることができました。学校という空間や時間を超えて、高校での学びは、私自身をワクワク・ドキドキさせてくれる土台になっていると感じています。

このようにワクワク、ドキドキする豊かな



今年度四月に校長として着任しました、馬場智子です。小松高校には、高校生としての三年間、英語科教諭として三年間、教頭として二年間、お世話になりました。今回は校長として、三年ぶりに勤務することになります。赴任して最初に校舎内を回り、春休み中の生徒の姿を見た時、「ああ、われらが母校、小松高校」という校歌のフレーズが頭に流れました。廊下ですれちがう生徒のさわやかな挨拶、チームメイトとともに部活動で汗を流す姿、教室や自習室、コモンスペースで自主的に学習に取り組む様子。すべてが本校の校是である「文武両道」「自主自律」を体現していると感じたか

クラスでしたが、数学で「虚数」を学んだときは、数直線上には表せない想像上の数が存在するという概念に衝撃を受けました。中学までの学びは、知識を得ることが中心でしたが、高校での学びは、知的好奇心を刺激し、今まで出会ったことのない視点や考え方を与えてくれて、自分の世界を広げてくれるものでした。

学びを、今の松高生に提供することが、私の校長としての使命だと考えています。現在、小松高校では、国の事業であるスーパーサイエンスハイスクールの指定校として、20年目の取組を行っています。第Ⅳ期は「正答のない問題に粘り強く取り組み、解決することが出来る探究力を持った人材の育成を研究課題」として、すべてのクラスで探究活動に取り組んでいます。変化が激しく、予測が困難な時代に生きていかなければいけない今の高校生にとって、正答のない問題に立ち向かう力は、将来よりよい社会を形成していく一人の人間として必要な力です。学校での学びの中で、課題を発見し、自分で問いを立て、課題を解決していく探究的な学びは、きっと生徒たちをワクワク、ドキドキさせることになるでしょう。もちろん昔ながらの知識を得るための時間もあります。が、生徒が主体的・対話的に学ぶために、ペアやグループで意見を交わす場面や、グループで協働して研究をまとめ、発表する場面などを探究活動の中で多く取り入れています。自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いたりすることにも、グループで協働して探究を深めていく過程にも、生徒たちにはワクワク、ドキドキすることがあるでしょう。ひとりで学ぶ時とは異なるワクワク・ドキドキ感を、今の松高生は感じているかもしれません。

今回、ご縁をいただき校長として母校に勤務するにあたり、責務の重さに身の引き締まる思いではありますが、本校発展のため、誠心誠意力を尽くしてまいりたいと思っております。生徒たちにとって小松高校での学びが豊かなものになるように、そして、VUCAの時代を生き抜いていくことができるように、正答のない問題に粘り強く取り組むことができる探究力を持った人材の育成に努めていく所存です。同窓生の皆様には、今後も変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会だより

第16回 富山小松同窓会の報告

幹事 横田 晶紀(高46回)

去る4月5日、晴天に恵まれた中、隔年開催の富山小松同窓会が開催されました。会場は、「世界一美しいスタバ」があることで名高い「富岩運河環水公園(カナルパーク)」内の「とやま自遊館」。桜が満開の春の日、20代から80代までの幅広い世代の卒業生32名が集まり、思い出話に花を咲かせました。

総会は、松田光司会長(高校33回)の挨拶から始まりました。平成3(1991)年の同窓会設立の経緯やこれまでの支部活動について語られ、新たな交流の場として期待される小松駅前に完成予定の複合ビル「ウレシヤス小松」の紹介もありました。

来賓の馬場智子小松高校校長(高校37回)からは、進学や部活動での活躍が続く母校の輝かしい現況について紹介され、祝辞をいただきました。懐かしい母校の近況を聞き、参加者の顔には自然と笑みが広がりました。

懇親会は、和田学小松同窓会会長(高校33回)の乾杯の音頭で始まり、和やかなムードの中、高校時代の思い出やクラブ活動のエピソードが次々と語られ、終始笑い声が絶えない楽しい会となりました。皆が自由に席を移動して談笑に興じる様子は、小松高校卒業生のアクティブさを象徴していました。

途中、角英夫関東小松同窓会会長

(高校31回)から関東支部の活動紹介があり、他地域での積極的な取り組みに刺激を受けました。懇親会では懐かしい話に花が咲き、参加者全員が笑顔を絶やさず交流を深めました。

会のクライマックスには、全員で小松中学校校歌と小松高校校歌を元氣よく斉唱しました。新田友和さん(高校45回)の締め挨拶と三本締めで一体感が最高潮に達しました。

そして、ニューヨーク・タイムズの「2025年に訪れるべき52カ所」に選ばれた富山の地で、2年後の再会を誓い合い、笑顔と共に散会しました。

今回の同窓会は、参加者一同にとって楽しく充実した会となりました。次の再会がさらに楽しみとなり、富山小松同窓会は今後も多くの笑顔と共に絆を深めていきます。



同窓会だより

第75期生 小松高校同窓会

75回常任理事

北野 藍花 (高75回)

2024年12月30日(月)、アパホテル小松グランドで第75期生小松高校同窓会を開催致しました。卒業してから約2年ぶりの再会となり、生徒数は約195名、先生方が約10名の総計約205の方に参加して頂きました。初めての開催ということもあつたので、秋頃から、念入りに準備をして参りました。例年とは異なる年末の開催にもかかわらず、大勢の方が参加して下さい、大変嬉しく思います。今回は、立食という形をとらせて頂きクラスごとに2つのテーブルを設けました。椅子は会場の端に寄せ、ご着席しなくなった際は各自で出して頂くという、自由をテーマとした設営とさせて頂きました。来賓として、小松高校で現在もご活躍やくされている川之上先生、能美先生、西先生、藤田先生、久間先生、福岡先生、また現在は小松高校を離れていますが、私達の3年間のうちご指導して下さい、長丸先生、古澤先生、山田先生にもご出席して頂きました。今回は、私達の3年間のうち担任

を務めて下さいました先生方をお誘い致しました。会費の精算などにより、予定していた乾杯の時間とは大幅にずれてしまいましたが、無事にイベントを終えて終了時刻までに閉会致しました。

イベントに関しては抽選会を行い計13名の方に成人祝いをかねてプレゼントをさせて頂きました。プレゼントの内容は参加して下さいた9名の先生方に予算を伝えてプレゼントを持ってきて頂き、先生のお言葉と共に配らせて頂きました。プレゼントの受け渡しの際には、もらった方が面白いコメントをしたり、どのように使うかの話をしたりして会場が和みました。プレゼントの内容には豪華な食べ物や電気毛布や成人した私たちに飲んでほしい美味しいお酒や修学旅行で、コロナ禍により北海道に行くことができなかった私たちのために北海道の食べ物を購入できるギフト券などがあり、みなさん喜んで受け取っていました。くじ引きで抽選を行いました。普段あまりくじ引きをしないのか先生の方々が楽しそうにくじを引く姿が印象的でやってよかったなと思いました。残りの4名には生徒の幹事8名が選んだ景品を3名に配らせて頂き、一名に一等賞として高級ギフトカードを配らせて頂

きました。みなさんの楽しんでる姿が見られてとてもいいイベントだったと思っています。閉会式の前に写真撮影の時間を設け、各クラスの集合写真を撮りました。撮影を行ったため、少し時間があまり、各クラス以外の撮影をしても良いと伝えると、部活動や受験期を共に乗り越えた塾の仲間たちとの集合写真や、1・2年の時のクラスでも集合写真を撮りたいという声で、最終的には時間が押しすぎてしまいました。しかし、みなさんの嬉しそうな笑顔が見られて時間を設けてよかったなと思いました。閉会式では西先生にお言葉を頂き、一本締めで終わらせて頂きました。みなさんまだ喋り足りない様子だったので、次回の同窓会はまだ少しお話を設けてあげられるといいなと思いました。この度は初めての同窓会開催にあたり改善点も多く見られましたが、後日みなさんから楽しかった。次はいつ行うのか。という意見がたくさん来て我々幹事一同嬉しく思いました。次回は何年後になるかわからないけど今回の経験を踏まえてより一層素晴らしい同窓会を開けるように努めたいと思いました。



「旅立ち」
「与作」
「夜半の月」

塚田 誉 (高34回)



渡り鳥は、何一つ迷わずに旅立ちます。たとえ困難が待ち受けていても。

さまざまなドラマを暗示する時絵パネルが「旅立ち」です。山中塗の時絵師だった父・故・塚田外志男の作品です。縦157センチ、横127センチの大作で、卵の殻で白鳥や山脈を表現しています。

私が経営する「ギャラリー&カフェ漆廊くろくろ」から、加賀市に寄付することになり、2024年12月から、加賀温泉駅の待合室に展示されています。

小松高校時代、毎日利用していた加賀温泉駅に、父の作品が飾られるのは不思議な感覚ですが、大変光栄なことと感じています。

自転車、バス、列車を乗り継いで約2時間かかる通学は、小松市内の同級生からは「大変そうだな」と思われていたようです。

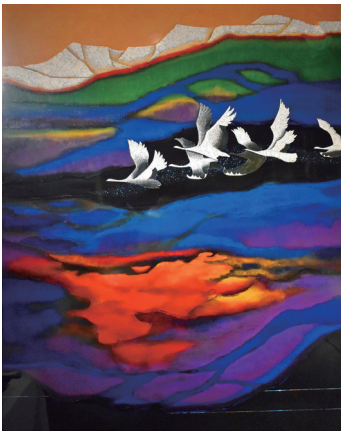
しかし私たち加賀の生徒たちにとっ

ては当たり前の日常でした。むしろ英単語を覚えたり、読書に夢中になったりした通学列車は、有意義な空間でした。逆に学校の近所に住む同級生たちの方が、明らかに遅刻が多かったように思います。

登校で乗る列車はほぼ一つに決まっていたのですが、帰りは、下校のタイミングによっていろいろなバリエーションがありました。それぞれの発車時刻を、語呂合わせで覚えていました。

バドミントン部の練習が午後6時に終わると、急いで着替えて6時37分小松発の列車に駆け込みます。一本早いと5時47分、通称「イシナ」ですが、栗津駅で特急待ちをするのであまり得をした気持ちになりません。そもそも「石な」加賀井で石のこと。なんて、ありがたみがない語呂合わせです。「イシナ」に乗るくらいなら、小松駅の待合室でうどんを食べ、テレビの「プリンプリン物語」でも見て、次の列車を待っているほうがいいなと感じていました。

得をした気持ちになるのは4時39分



の列車、通称「ヨサク」に乗れたときです。また、あまり多くはありませんでしたが、さらに早く下校できたときは、3時48分の列車、通称「夜半の月」に乗れました。

「夜半の月」と呼ぶのは、3時48分を「ミヤ」と読み、百人一首の紫式部の歌「巡りあひて見しやそれともわかぬ間に雲がくれにし 夜半の月かな」に対応させたからです。見つけた途端、たちまち消えてしまう月のはかなさが、滅多に乗ることのできない早い列車に通ずるような気がして、私は気に入っていた語呂合わせです。

金沢に住むようになり、列車を利用する機会が少なくなりましたが、在来線に乗ることがあると、時刻を気にしながら八日市サンブラザを早歩きしていた日々が鮮やかに浮かびます。「今回は「ヨサク」だ」「きょうは「夜半の月」でラッキー」などと考えながら歩いたものです。「推理小説の続きが早く読みたいから、「イシナ」でありたい」とも。

これからも加賀の小松高校生たちは、加賀温泉駅を利用して通学することでしょう。長い通学時間を無駄と思わず、大いに楽しんで欲しいと思います。

できれば待合室に展示されている「旅立ち」を見て、毎日励まされる気持ちになってほしいものです。

加賀温泉駅7時21分発の列車の語呂合わせなら、例えば、「ナニヒトツ」迷わずに旅立ちとうなど、いかがでしょうか。

同窓会支援制度

対象 ● 20歳代同窓会会員
金額 ● 1回2万円

支援回数 ● 2回上限

報告 ● 支援制度報告書にて
写真・内容報告いただく

天守台編集委員会に報告

1、設立の趣旨

若年層の同窓生の同窓会への参画意識を少しでも高めるために、経済的に余裕がなく、援助を必要とすると思われる、20歳代の学年別同窓会開催時について小松同窓会から支援をする。

2、制度の概要

① 開催補助金の支援年齢条件
卒業後、20歳代までの同期同窓会について、2回を上限として1回につき、2万円を支援する。

② 開催補助金支出の条件

- ・ 学年全体の同期同窓会であること
- ・ 参加予定対象者数が50名以上であること
- ・ 代表申請者が、学年常任理事であること

・ 小松同窓会 回期会支援事前申請書」と事後の小松同窓会 回期会開催報告書」を事務局に提出すること

小松同窓会入会式

第5回小松同窓会青雲賞贈呈式
常任理事任命式

日時

令和7年3月4日(火)9時〜9時20分

出席

和田 学 会長、鈴木俊也 副会長、
木村 勉 副会長、田上好裕 副会長

女性だから出来ること

石川県議会副議長

八田 知子（高33回）



私は1978年に小松高校に入学しました。当時は1学年9クラスあり、芦城中学からは、80名が入学しました。1年の時のクラスは、芦中出身が4人しかおらず、女子は私のみ、男子も中学時代は同じクラスになったことのない方々でした。

何を思ったか、『私をよく知る人がない』、これまでの私から脱却するのは今！と一念発起。現在の私を知っている方からすると、とても信じがたいとは思いますが、中学まではどちらかというと大人しいほうでした。明るく活発キャラ全開の自己紹介。この日から私のイメージはめっちゃ明るくポジティブな人として現在に至っています。しかしこの時の一大決心があったからこそ、今でもずっと繋がっている多くの友人達や恩師のおかげで今の仕事に活かす財産が築けたのだと思っています。

令和7年3月19日に、118人目の石川県議会副議長に就任いたしました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。

又、107代議長の安居知世氏とともに正副議長が女性というのは全国初でもあり、注目度の高さに身の引き締まる思いでもあります。皆様のご期待に応えられるよう、努力してまいります。

私たち女性議員は生活者の一番身近な存在として、皆様方からの声を聴き寄り添い、解決していくのが役目だと思っています。

男性には言いにくいけど、女性なら言いやすいとお聞きしますので、そんな時はどうぞ私たちを使ってください。

全国都道府県議会において、直近のデータではありますが女性比率が最も高いのが、東京都の33.1%、次いで香川県の22.5%、京都府の22.4%。逆に低いのが、大分県の4.7%、山梨県と福井県の5.6%で石川県は10%で同率34位でありました。全国平均は14.5%となっています。

県内19市町議会においては、女性比率は11.2%ではありますが、3つの議会で女性議員がゼロであります。

世の中に女性は半分以上いるにも関わらず、まだまだ女性の声が上がりにくいということは否めません。しかしながら女性議員が増えていくことは、それまで日が当たっていなかった問題に光を当てることができ、課題として認識させ、さらに対応する政策で問題解決につなげていくことが可能となります。

政党を超え取り組んだ、性暴力被害者支援に対するワンストップ支援センター（パープルサポート）いしかわが2017年に設置されました。

また10年前に私が提案した女性防災士の育成の促進も、目標とする3000人を8年前倒しで本年3月に達成することが出来ました。これまでも大きな災害の際、避難所にて災害弱者といわれる

女性・子ども・高齢者・障がい者に対する様々な課題がありましたが、これにより女性視点での防災減災がさらに進むと思われれます。これまでも液体ミルクの導入や、県の防災会議での女性比率向上などに取り組んでまいりました。

国際女性デーの取り組みとして、一般社団法人HAPPY WOMANとともに1年かけて企画・準備したイベントでは、予想をはるかに超える3500人もの方にご来場いただき、ただイベントとして終わるのではなく、継続的に女性のエンパワーメントとジェンダー平等等を、社会全体の意識を変革することに繋げることが出来ました。

これからの取り組みとして、女性の健康の包括的ケアシステムの構築の一環として、「思春期検診」を石川県のみならず全国導入を目指してまいります。生理が来たらまず「思春期検診」と、かかりつけ婦人科医を当たり前の世の中にし、生涯に亘る健康管理の実現を目指します。女性の体を若い時からケアすることで、子宮内腺症・子宮頸がん・子宮体がんはもとより、しいては不妊症の改善につながります。これまで遅れていた女性の予防医療により女性特有の健康課題による経済損失は年間3.4兆円に上がるとされています。

これは女性にしか出来ない課題でもあり、女性だからこそ出来る取り組みであります。

あくまで傾向ではありますが、女性脳の特徴でもある感性を重視し、「コミュニケーション能力を活かし、マルチタスクを武器として慎重にかつプロセス志向でこれからも取り組んでまいります。

●青雲賞受賞者

畑中凜生37H、久保田康生38H

●77回常任理事

中 啓亮31H、久保田康生38H

卒業式に先立ち、卒業生311名の小松同窓会入会式が行われ、鈴木俊也副会長が登壇し、77回常任理事委嘱状授与、「小松同窓会青雲賞」表彰状、記念品を贈呈しました。

小松同窓会青雲賞

●表彰対象

卒業予定者のうち、次のいずれかに該当する生徒の中から2名程度を選考。

- ① 校是である「文武両道」を実現し、学校生活全般にわたり他の模範となった生徒
- ② 部や生徒会の発展に顕著な成果を挙げ、学校の活性化に多大な貢献をした生徒
- ③ ボランティアなど社会活動で顕著な活動実績を残した生徒
- ④ その他、特筆すべき成果を挙げ、表彰に値すると認められる生徒

●表彰者(2名)

① 37H 畑中 凜生はたなかりお

② ①+②+③

③ 38H 久保田康生くぼた こうせい

①+④



小松同窓会 2025年 講演会・新年会報告

副会長 江口 充 (高47回)

2025年1月25日、小松同窓会の新年会が開催され、多くの同窓生が集いました。

新年会に先立ち、講演会では元NHK専務理事の角 英夫(高校31回卒)氏が登壇し、「激動する世界 岐路に立つ日本」をテーマに講演を行いました。角氏は現在衛星放送インフラ会社の経営に携わっていることから、冒頭、世界の宇宙開発競争が政治・経済・安全保障に与える影響について解説しました。アメリカのスペースX、中国の宇宙開発などが取り上げられ、また、ウクライナ戦争や中東問題において宇宙技術がどのように活用されているかについても説明がありました。

そして、冷戦崩壊以降の長年にわたる現地取材やNHKスペシャル制作の経験から、ウクライナ戦争、中東情勢、中国の現況、そしてランプ政権が始動したアメリカについて、また日本経済の再生について、最新の分析が示されました。参加者からは「国際情勢がこれほど複雑に絡み合っているとは知らなかった」「日本の課題について考えさせられた」といった感想が寄せられました。

講演会の後には新年会が行われ、全国から集まった同窓生たちが交流を深めました。

新年会の冒頭では、山本副会長が「毎年のように自然災害や社会の変化がある中で、同窓生のつながりを大切にし、支え合うことが重要である」と述べ、会の幕を開けました。続いて、和田会長が「小松高校が126周年を迎える本年、同窓生のネットワークをさらに強化し、母校の発展に貢献していきたい」と挨拶。関東や関西で開催された支部会の成功や、学校との連携強化が報告され、2027年の130周年記念事業に向けた準備が進められていることが発表されました。

次に、米口校長が登壇し、学校の現状と今後の展望について語りました。同窓会からの支援を受けた文化・体育活動の充実や、生徒の成長を支える取り組みが紹介されました。また、部活動の活躍や進学実績の向上など、母校の発展について報告され、同窓生へ引き続きの応援を呼びかけました。

乾杯の音頭は、佐々木衆議院議員が務め、「能登半島地震の早期復興を願いながら、小松高校同窓会の発展と同窓生の活躍を祈念する」と述べました。

会場では、卒業年次を超えた交流が活発に行われ、久しぶりに再会した仲間たちが懐かしい話に花を咲かせました。同級生同士の再会はもちろん、世代を超えたつながりも生まれ、先輩・後輩の間で仕事や人生のアドバイスを交わす姿が多く見られました。特に、若手同窓生がベテランの先輩方と交流し、社会経験やキャリアについて貴重な話を聞く機会となったことが印象的でした。

新年会が終盤に差し掛かり、恒例の幹事の引き継ぎが行われました。本年度の幹事学年である49回生から、50回生へとバトンタッチが行われました。

50回生代表は「来年の同窓会も成功させ、次の世代へしっかりと引き継いでいきたい」と意気込みを語りました。

今回の同窓会は、講演会での学びと新年会での交流が融合し、非常に充実したものとなりました。同窓生同士のつながりを強めるとともに、母校の発展を支える新たなプロジェクトについても意見が交わされました。

今後も小松高校同窓会が発展し、さらに多くの同窓生が集う場となることを期待しています。また、7月の総会で多くの同窓生の皆さんとお会いできることを楽しみにしております。



小松同窓会 記念館特別展 「オクヤナオミ」展

(奥谷直巳／中学44回卒)

記念館委員会では、本年度の小松同窓会記念館特別展として、「オクヤナオミ」展(奥谷直巳／中学44回卒)を開催します。

奥谷氏は、疎開中の宮本三郎との美川海岸での出会いをきっかけに、金沢美術工芸専門学校(現・金沢美術工芸大学)油画科の第一期生として入学しました。昭和25年に卒業した後、昭和40年に渡欧し、パリに在住しながら制作活動を展開。フランスを中心に、ヨーロッパ各国の国際美術展や版画展などで作品を発表され、高い評価を受けられました。昭和57年までの渡欧生活の後、帰国後は、東京を拠点として活動し、故郷の石川では、小松市立本陣記念美術館「対角線」の異邦人(平成11年)、同美術館「現代美術の行方」(平成17年)、小松市立宮本三郎美術館「宮本三郎とオクヤナオミ」(平成24、25年)などの展覧会を開催しました。著書に

は、『対角線』の異邦人(水星社／平成15年)、『余日は芸術に關係がない——が、ひとつのフォルムである。』(水声社／平成20年)があります。

本展は、記念館特別収蔵庫と校舎ギャラリーを会場に、令和2年に逝去された奥谷氏の追悼展として、化石を含む明晰な芸術家たちへのオマージュ作品集・12点などの版画作品、アクリル画、油彩画を展覧します。また、金沢美術工芸専門学校の同期生である鴨居玲氏がパリ在住時(昭和41年)に、奥谷夫妻を描いた肖像画(スケッチ・2点)も展示を予定しています。

在校生たちは、鋭敏な理性と知性、そして、感性を働かせて、オクヤナオミに秘められた「数字」と「言語」を読み取り、「色」と「形」のハーモニーを心豊かに感じ取ってくれることと思います。同窓生の皆様には、お誘いあわせのうえ、是非ご来校いただき、記念館特別展「オクヤナオミ」展をご高覧くださいませ。よろしく案内を申し上げます。

文責／記念館委員会委員長
安田 淳(高31回)

小松同窓会 記念館特別展 「オクヤナオミ」展

(奥谷直巳／中学44回卒)



輝く気体の結晶微塵 その3

- 会 場：小松高校 記念館特別収蔵庫 校舎ギャラリー
- 会 期：令和7年10月6日(月)～11月1日(土)
- 開館時間：10:00～15:00
- 休 館 日：土・日・祝日 ※11月1日(土) 開館

休館日に観覧ご希望の場合は、出来るだけ対応させていただきますので、同窓会事務局(0761-21-6330)までお問合せください。

宮本三郎／ 木版画作品2点 母校に寄贈

安田 淳(高31回)

宮本三郎(中学20回)は、卓越した素描(デッサン)力で、人物をモチーフとし、晩年は、花と裸婦を主題にした作品を制作し、その作品は、東京国立近代美術館をはじめ、世田谷美術館分館宮本三郎美術館、小松市立宮本三郎美術館などで展示・保存されています。国立霞ヶ丘競技場陸上競技場の壁画、小松市公会堂の壁画「小松の産業」や宮本三郎ふるさと館の銅製レリーフ「産業と文化」などの原画なども描き、晩年には、木版画の作品も手がけました。

木版画「舞妓十二題集」は、宮本三郎の描いた素描・淡彩画の原画を『彫師』

菊田幸次郎と「摺師・上杉桂一郎」により多色刷り木版画として1972年(昭和47年)に制作されました。

この度、木版画「舞妓十二題／松の内」と「舞妓「紅さし」の図」の2点を母校に寄贈させていただくこととなりました。

「舞妓の中にあるもの、それは日本女性の磨きに磨かれた伝統美の集積」と宮本三郎が語ったように、舞妓の季節ごとの行事などの場面を題材に素描・淡彩画として描いた作品を原画とした木版画「舞妓十二題／松の内」は、かるた部の生徒たちの活躍を願い、活動場所である和室に展示し、宮本三郎の作品に見守られながら日々精進していただけることを期待します。

※参考／石川県立美術館・小松市立宮本三郎美術館・世田谷美術館宮本三郎記念美術館(Webページ)



木版画「舞妓十二題／松の内」



木版画「舞妓「紅さし」の図」

進路指導課より

「小松メソッド20」

組織的な進路指導体系の次なるステージ

小松高校では、2003年に石川県から「いしかわスーパーハイスクール」に、2006年に文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」に指定されました。それ以降、新しい取り組みを導入しながら、独自の進路指導体系「小松メソッド」をつくりあげ、組織的・戦略的に指導を行い、国公立大学合格者数が200名を超えるような学校となりました。現在、小松高校の生徒の96%以上は国公立大学を第一志望としており、また約半数の生徒が難関国立大学を、約3割の生徒が地元の金沢大学を目指しています。

文部科学省の調査によると、2024年度の大学入学者数が募集定員の総計を1万人以上下回り、入学者数を定員で割った定員充足率は98%で、初めて100%を切りました。少子化が主な要因であり、本格的に「大学全入時代」に入ったといえます。特に私立大学では6割近くが定員割れとなり、さらに3割は定員充足率が80%未満となり、学生確保が大きな課題となっています。一方、国公立大学では定員充足率は104%ですが、多様な学生の受け入れを主な目的として、特別選抜（総合型選抜・学校推薦型選抜）の割合は年々上昇しており、2025年度入試では募集定員のうち20%を超えました。また、大学入試共通テストでは、2025年度入試からは教科「情報」が加わり、ほとんどの国公立大学では6教科7科目（1000点満点）が必須となりました。

時代の激しい変化に対応すべく、学校教育も大きく変化をしています。GIGAスクール構想により1人1台端末環境となり、また、探究学習の必修化により高校生が課題研究を行い、研究内容をまとめ、発表を行うことが当たり前となりました。2026年度から大学入試共通テストは電子出願へと変更となり、知識・理解を確認する問題から思考力・判断力・表現力を問う問題へと出題のウエイトが変わってきています。

大学入試の大きな変化に対応するため、小松高校では組織的な進路指導体系を次なるステージへと進化させるべく、「小松メソッド20」の構築を始めています。年々増加する特別選抜への支援・指導体制の充実を図り、高次元化した成績データの解析を行い、多面的な分析を試みています。これからの生徒の進路実現を全力で支援していきます。

最近3か年の大学合格者数（浪人生を含む）

大学名	R7	R6	R5	大学名	R7	R6	R5	大学名	R7	R6	R5
北海道大学	8	4	11	横浜国立大学	0	1	1	青山学院大学	0	5	4
東北大学	4	5	9	新潟大学	2	0	5	慶応義塾大学	3	7	7
東京大学	1	2	5	富山大学	18	18	14	上智大学	7	1	3
東京科学大学	2	1	4	金沢大学	64	75	61	中央大学	2	1	5
一橋大学	2	1	2	福井大学	11	9	14	東京理科大学	3	2	5
名古屋大学	4	9	7	信州大学	8	4	3	法政大学	10	2	10
京都大学	3	4	4	静岡大学	2	3	3	明治大学	15	8	5
大阪大学	17	11	5	名古屋工業大学	5	2	4	立教大学	8	6	2
神戸大学	8	7	5	奈良女子大学	1	3	6	早稲田大学	3	11	3
九州大学	3	3	4	岡山大学	2	0	1	同志社大学	36	31	34
10大学合計	52	47	56	広島大学	5	2	3	立命館大学	73	84	87
国立大学医学科	8	3	6	大阪公立大学	3	8	7	関西大学	18	16	25
筑波大学	0	2	4	石川県立大学	2	3	2	関西学院大学	16	19	12
千葉大学	7	7	4	国公立大学合計	227	227	243	私立大学合計	553	505	635
東京外国語大学	2	1	0								
お茶の水女子大学	0	2	0								

学校職員

委員長
副委員長
委員

「天守台」編集委員会

村 荻 橋 辻 宮 前 細 東
戸 野 本 浦 田 川
幸 克 誠 弥 千 次
徹 隆 子 憲 治 生 鶴 郎
(高 (高 (高 (高 (高 (高
33 (教 (高 (高 (高 (高
回) 頭) 48 45 33 26 35
))))))
))))))

編集室だより

馬場校長には令和3.4年の教頭時代に天守台編集委員会でお世話になり、再赴任され懐かしく嬉しい限りです。また塚田さんの語呂合わせの話には共感を覚えます。私の若かりし頃は友人や彼女？の電話番号、住所は語呂合わせで覚えしました。今ではパソコンや携帯電話で一発簡単メモリー。時代は変わり頭脳記憶力操作は減りました。これからも天守台宜しくお願い致します。(東)

同窓会LINEコード



【同窓会本部】TEL:0761-21-6330

メール:komatsudousoukai@gmail.com

ご住所の変更などございましたら、事務局までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。